

太平洋戦下電波に乗った作家・作品 (1)

A list of a kind of literature in broadcasting during World War 2

奥出 健

大戦勃発は昭和16年12月8日。東京は冷たい風があつたが快晴。その日のラジオ番組（JOKK）は朝6時40分の「武士道話」から始まって、夜9時00分の時局談話で終わり、もう一つの「都市放送」も朝6時30分の基礎英語講座から始まり、夜9時の基礎独語講座をもつて終わる筈だった。しかしこの流れは8日の朝刊が配達されてほごない早朝に（上林暁「歴史の日」および太宰治「十二月八日」とも早朝と記す。7時、または6時半ころ説もある。大本営発表は6時。放送時間については後に考証する）「大本営陸海軍部発表、十二月八日午前六時、帝國陸海軍は本八日未明西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり」という臨時ニュース（「米英軍」をニュースではアメリカ・イギリス軍と放送したという。「ドキュメント昭和史4」平凡社）によつて破られる。小林秀雄「三つの放送」によれば、彼はこの放送を聞いたあと「いかにも、成程なあ、といふ強い感じの放送であつた。一種の美文である」と感じたという。聞く人々に強いインパクトを与えた放送だったのである。このあと軍艦マーチの演奏がながれ、ニュースが繰り返された。やがて昼近くになつて「情報局発表、八日十一時四十五分、只今米英に対する宣戦の大詔が発せられ、また同時に臨時議会召集の詔書が公布されました」というアナウンスに続き、「天佑ヲ保有シ萬世一系ノ…」から始まる「宣戦の大詔」が発表された。これを聞いて坂口安吾は「涙

が流れた。言葉のいらぬ時が来た。必要ならば僕の命も捧げねばならぬ」と思った。午後6時には情報局から「いよいよその時がきました。国民総進軍のときが来ました」から始まり「国民の方々はどうぞラジオの前にお集まりください」という全国民に報知する政府からのメッセージも放送されている（竹山昭子『戦争と放送』社会思想社1994）。終日、人々の耳はラジオにくぎづけになつた。愛国の宣伝がかしましくなるのはこれ以降である。坪井秀人「フォビアからラジオオマニアへ」によればラジオにおいて「愛国詩」の朗読がレギュラー化されるのは、「開戦直後の十四日から」とある。が、新聞のラジオ欄には作家名など詳細記述はない。15日も作家名記述はないが、16日の遠藤慎吾「全亜細亜民族に叫ぶ 外」から氏名が記載されだす。坪井によれば、これ以降、国民に対して「ラジオオマニアを強制するメディアの権力性ははつきりと前景化されていく」（同前）と述べている。坪井にはラジオと文化・文学にかかわる先駆的な著書『声の祝祭 日本近代詩と戦争』（名古屋大学出版局1997）があり、とりわけ「朗読詩放送の記録」についてはこの書に詳しい。またそれ以降、ラジオが「放送」——「国家」——「国民の（声）」となつていくという流れについては、黒田大河「国民統合の（声）」の中で〈書く〉こと」で詳しく述べられている。（坪井秀人、黒田大河両氏の論は、ともに木村一信編『戦時下の文学』

インパクト出版会（二〇〇〇所収）。また先記の竹山昭子『戦争と放送』も資料が多く、示唆に富んでいる。ただ、今回奥出が試みるのは、まず大戦勃発から敗戦までの『朝日新聞』のラジオ番組欄に記載されているもののなかから、著名作家や作品を拾いだして一覧化（但しあくまでも番組欄であり、臨時変更の場合も多々あつたろう）し、その後、先行の研究に導かれながら独自の考察をなそうとするものである。その際には放送された作品の内容などにもふれてみるつもりである。

記事採取の方法を記しておく。採取したものは当時活躍していた著名な作家、またはその作家にかかわるもの。あるいは著名な物故

作家の作品である。ただし、劇場中継作品、放送劇、浪速節、講談などは採取しなかった。また愛国詩も作品だけが提示され作家名が提示されていないものについても開戦直後を除いて原則的には採取していない。先記、坪井『声の祝祭』所載の「朗読詩放送の記録」がそれを埋める。月日欄の、例えば「2月20日」のように「〜」が付いている場合は数回連続で放送されたものである。放送タイトルにおいて、例えば「*城炭坑を訪ねて」のように「*」があるのは放送欄の活字が潰れていて判読不可能なものである。「都市放送」については今回ふれない。

昭和16年

大日向伝	12月12日	朗読「自動車部隊」	昼1..00
水野広徳	12月14日	朗読「撃沈」	夜6..00
吉川英治	12月14日	物語「桶狭間の戦」	夜9..00
土井晩翠	12月15日	愛国詩朗読「正義の先鋒」	朝7..30
棟田博	12月15日	物語「帰還兵の覚悟」	昼1..00
高村光太郎	12月18日	愛国詩「彼らを撃つ」	朝7..30
土井晩翠	12月18日	愛国詩「世紀の烽火」	朝7..30
尾崎喜八	12月20日	愛国詩「新たな暦」「決意はすでに堅い」	朝7..30
高村光太郎	12月20日	愛国詩「彼らを撃つ」	朝7..30

蔵原伸二郎	12月23日	愛国詩「神の軍勢」外	朝7..30
佐藤惣之介	12月24日	愛国詩「海の軍勢」外	朝7..30
三好達治	12月25日	愛国詩「アメリカ太平洋艦隊は全滅せり」	朝7..30
百田宗治	12月25日	愛国詩「僕たちは足踏をしてゐる」	朝7..30
佐佐木信綱	12月25日	愛国詩「愛国和歌」	朝7..30
土井晚翠	12月25日	愛国詩「英米艦隊撃滅」	朝7..30
高橋邦太郎	12月25日	物語「六段」	夜9..00
吉屋信子	12月26日	自作朗読「十二月八日のサイゴン」	昼1..00
深尾須磨子	12月26日	愛国詩「天馬を駆りて行く」	朝7..30
西条八十	12月26日	愛国詩「香港の日章旗」	朝7..30
千家元麿	12月26日	愛国詩「戦捷に感激して」	朝7..30
佐藤一英	12月26日	愛国詩「雪降れり」	朝7..30
佐藤春夫	12月27日	愛国詩「大東亜戦史序曲」	朝7..30
堀口大学	12月27日	愛国詩「呼びかける」	朝7..30
佐藤春夫	12月28日	愛国詩「大東亜戦史序曲」	朝7..30
勝承夫	12月28日	愛国詩「我が子に教ふ」	朝7..30
釈超空	12月28日	愛国詩「伴の準備」	朝7..30
井上康文	12月28日	愛国詩「日本の空」	朝7..30
風	12月29日	愛国詩「神国顕現」	朝7..30
河井醉茗	12月29日	愛国詩「大東亜戦争」	朝7..30
北原白秋	12月29日	愛国詩「愛国和歌」	朝7..30
百田宗治	12月29日	愛国詩「僕等は足踏みをしてゐる」	朝7..30
齊藤茂吉	12月29日	朗唱「大みことのり」	昼0..00
佐佐木信綱	12月29日	朗唱「神のみいくさ」	昼0..00
土屋文明	12月29日	朗唱「新しき歴史」	昼0..00
北原白秋	12月29日	朗唱「国民決死の秋」	昼0..00
徳富蘇峰	12月29日	朗唱「聖詔渙発」	昼0..00
深尾須磨子	12月30日	愛国詩「天馬を駆りて行く」	朝7..30

相馬御風	12月31日	物語「年暮るる越後より」	夜9:00
勝承夫	12月30日	愛国詩「我が子に教ふ」	朝7:30
竹内てるよ	12月30日	愛国詩「母の大義」	朝7:30
昭和17年			
徳富猪一郎	1月2日	「大東亜指導者としての日本の使命」	夜7:30
津村敏行	1月3日	「南海の日章旗」	昼12:00
大仏次郎	1月3日	物語「大楠公」	夜9:00
日比野士朗	1月6日	朗読「我等は同胞」	昼1:00
徳富蘇峰	1月6日	朗誦「五彩雲」	夜8:00
佐佐木信綱	1月6日	朗誦「朝日のぼる」	夜8:00
斎藤茂吉	1月6日	朗誦「勝きをふ」	夜8:00
岸田国士	1月7日	国民の声	朝7:00
吉田絃二郎	1月8日	朗読「大詔を奉戴して」	昼1:20
川路柳虹	1月13日	愛国詩「世紀の詩」	朝7:30
菊池寛	1月14日	朗読「北条時宗」	昼1:00
尾崎喜八	1月15日	愛国詩「少年航空兵」	朝7:30
吉川英治	1月17日	国民の声	朝7:30
浅野晃	1月17日	朗読「国史の回帰」	昼1:00
佐藤惣之助	1月18日	子供の時間「アメリカとはこんな国」	夜6:00
堤千代	1月21日	物語「御民われ」	夜6:30
野口米次郎	1月23日	愛国詩「荒行者」	朝7:30
石樽千亦	1月23日	愛国詩「ハワイ沖」	朝7:30
高村光太郎	1月23日	愛国詩「最低にして最高の道」	朝7:30
吉植庄亮	1月24日	国民の声	朝7:30
斎藤茂吉	1月26日	朗誦「大みことのり」	朝7:30
野口米次郎	1月27日	朗読と箏曲「日本創造」	夜9:00
菊池寛	1月31日	国民の声	朝7:30

丸山薫	2月2日	愛国詩「南洋を望んで」	朝7..30
折口信夫	2月5日	「中世愛国歌講話」	朝6..30
野口米次郎	2月6日	愛国詩	朝7..30
佐佐木信綱	2月7日	朗誦「亜細亜の曙」	朝7..30
相馬御風	2月7日	朗誦「おほきみは」	朝7..30
吉川英治	2月13日	物語「小野寺十内の妻」	夜9..00
高村光太郎	2月16日	愛国詩集「シンガポール陥落」	朝7..30
野口米次郎	2月16日	愛国詩集「シンガポール陥落」	朝7..30
谷崎潤一郎	2月16日	朗誦「シンガポール陥落に際して」	夜8..00
志賀直哉	2月17日	朗誦「シンガポール陥落」	夜9..00
川田順	2月20日	「近世愛国歌講話」	朝6..30
高村光太郎	2月27日	愛国詩「戦捷祝詩」	朝7..30
三好達治	3月9日	愛国詩「九つの真珠のみ名」	朝7..30
岸田国士	3月10日	新しい生活の建設「生活のうるほい」	昼1..20
百田宗治	3月13日	愛国詩「わが子に」	朝7..30
柳田国男	3月13日	朗誦「南の島の清水」	昼1..00
室生犀星	3月18日	愛国詩「日本の朝」	朝7..30
川路柳虹	3月21日	愛国詩「うぶすなの上」	朝7..30
堺誠一郎	3月21日	朗誦「マレー西岸部隊」	昼1..00
吉川英治	3月21日	物語「宮本武蔵」	夜9..00
奥むめお	3月23日	新しい生活の建設「働く生活」	昼1..30
斎藤茂吉	4月1日	朗誦「高千穂の峰登山記」	昼1..00
北村小松	4月1日	朗誦「見よダバオの同胞を」	夜8..00
山本和夫	4月3日	朗誦「ビルマ戦線猛進記」	昼1..00
岸田国士	4月8日	「常会の時間」	夜7..40
谷崎潤一郎	4月9日	朗誦「吉野蔦」	夜7..40
古谷綱武	4月18日	朗誦「出雲の漁村にて」	昼1..00
吉川英治	4月20日	「招魂の御祭に参列して」	夜7..30

山本有三	5月13日	「隠れたる先覚者小林虎三郎」	夜9..00
海野十三	5月24日	「南太平洋の戦闘報道より帰りて」	昼1..00
山岡荘八	5月29日	「潜水艦で印度洋を征く」	夜6..00
山岡荘八	5月29日	「捕虜の見たわが潜水艦」	夜8..00
木村毅	6月14日	「フイリツピンの肉弾線と文化戦」	昼1..00
室生犀星	6月16日	朗読昭和名作選「戦死」	昼1..00
室生犀星	6月16日	朗読昭和名作選「博」	昼1..00
久米正雄	6月18日	「文章報国の大道」	夜9..00
北原武夫	6月18日	「ジャバダより」	夜10..00
岡田禎子	6月21日	「病院船従軍記」	昼1..00
水木京太	6月25日	物語「じやがたら文」	夜9..00
木村毅	6月26日	国民学校放送 戦線地理「大マニラの話」	昼2..00
北町一郎	6月27日	朗読「若きマレーの尖兵」	昼1..00
棟田博	7月1日	朗読「背のう」	昼1..00
奥むめお	7月1日	「私達もかく戦ふ」	昼1..30
美川きよ	7月2日	戦時家庭の時間「北支の兵隊さんをお訪ねして」	朝9..00
火野葦平	7月2日	「麦と兵隊」	夜6..00
富沢有為夫	7月2日	「麦と兵隊」	夜10..00
海野十三	7月3日	「バタビアより」	夜10..00
火野葦平	7月8日	国民学校放送 戦線地理「南の聖地ラバウル」	昼2..00
大木敦夫	7月8日	朗読「麦と兵隊」	昼1..00
堤千代	7月9日	「バタビアより」	夜9..00
島崎藤村	7月10日	「従軍詩集」	夜9..00
富沢有為夫	7月16日	物語「門出」	夜8..00
和田伝	7月16日	朗読 昭和名作選「夜明け前」	昼1..30
野口米次郎	7月16日	「バタビアより」	夜8..00
山口青とん	7月16日	「ジャバ作戦の九日間」	夜8..00
吉川英治	7月28日	物語「地下水」	夜9..00
	7月31日	朗読「起てよ印度」	朝6..30
	7月31日	「俳句の精神」	朝6..30
	7月31日	「軍神加藤少将を語る」	夜6..20

坪田讓治	8月10日	朗読「綴方子供風土記」	昼1..00
高見順	8月17日	朗読「ビルマ戦場の草木」	昼1..00
菊池寛・阿部知二	8月20日	対談(東京バダビアを結ぶ)	夜9..00
谷崎潤一郎	8月24日	朗読 昭和名作選「盲目物語」	昼1..00
土屋文明	8月30日	「国民的感動」	朝6..30
榊山潤	9月2日	戦時家庭の時間「南方戦線の兵隊さんの労苦」	朝9..00
芥川龍之介	9月2日	朗読「槍ヶ嶽紀行」	夜9..00
大仏次郎	9月3日	朗読「前線の北白川殿下を偲び奉りて」	夜7..40
サトウ・ハチロー	9月4日	「右の家・左の家」	夜8..00
火野葦平	9月6日	「進軍の歌」	夜6..00
中勘助	9月11日	朗読「雁の話」	昼1..00
西条八十	9月12日	「日本の母を訪ねて」	昼1..00
吉川英治	9月14日	朗読「空の軍神・加藤少将」	昼1..00
望月百合子	9月17日	戦時家庭の時間「伸びゆく満洲の姿」	朝9..00
志賀直哉	10月9日	朗読「朝・昼・晩」	夜6..30
室生犀星	10月12日	朗読「庭」	昼1..00
日比野士朗・岡田禎子	10月16日	「日本の母を訪ねて」	昼1..00
高村光太郎	10月17日	「詩の精神と日常生活」	朝6..30
高村光太郎	10月17日	愛国詩朗読「新しき日に」ほか	朝6..30
壺井栄	11月2日	物語「五目ずし」	夜9..00
坪田讓治	11月5日	少国民文化講座「文化の故郷」	昼4..00
大木惇夫	11月6日	共栄圏講座「南方より帰りにて」	昼2..00
古丁	11月8日	「大東亜文芸復興と満洲文学」	夜6..30
尾崎一雄	11月8日	「蕎麦餅物語」	夜9..00
大木惇夫	11月11日	詩の朗読「バンドンへの道」	夜8..00
尾崎士郎	11月12日	「バタアンの思ひ出」	朝7..00
今日出海	11月18日	「比島より帰りにて」	夜6..00
吉川英治	11月18日	「新編忠臣蔵」	夜8..00

岩倉政治	11月28日	物語「樽の中の話」	夜9..00
高村光太郎	11月29日	愛国詩「最低にして最高の道」	朝7..00
大木惇夫	12月4日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝7..00
尾崎士郎	12月11日	戦時家庭の時間「慰問袋と兵隊達」	朝9..00
吉川英治	12月12日	「新編忠臣蔵」	夜8..00
野口米次郎	12月14日	愛国詩「神風万里」	夜8..00
窪川稲子	12月19日	(昭南より)「マライ激戦の跡を廻りて」	夜9..00
北村小松	12月20日	朗読「荏原氏の感化」	夜9..00
岸田国士	12月21日	「日本人の矜りとたしなみ」	夜9..00
吉植庄亮	12月21日	「愛国百人一首の話」	昼1..00
川田順	12月23日	「愛国百人一首の話」	昼1..00
浅野晃	12月23日	「米英文化との戦」	夜6..30
北原白秋	12月27日	朗誦「国民決死の秋」	朝7..00
室生犀星	12月28日	朗読「虫寺抄」	昼1..00
吉田絃二郎	12月29日	朗読「戦ふものは美し」	夜8..00
横光利一	12月30日	朗読「睡魔」	昼1..00
昭和18年			
富沢有為男	1月5日	少年産業戦士慰安会「前線でみた諸君の力」	夜6..00
河井醉茗	1月6日	愛国詩「*」	朝7..00
高村光太郎	1月6日	「英米文化との戦ひ」	夜6..30
里村欣三	1月8日	戦時家庭の時間「戦線で見た皇軍魂」	朝9..00
阿部知二	1月8日	戦時家庭の時間「ジャワの文化と我等」	夜6..30
山本和夫	1月16日	お話「桜咲くビルマ」	夜6..00
火野葦平	1月17日	「南方における人格的建設」	朝7..00
坂本越郎	1月17日	愛国詩「高原」	朝7..00
尾崎喜八	1月19日	「力強く明るい戦争生活」	昼1..00
尾崎喜八	1月20日	朗読と管弦楽「愛国の歌」	夜8..00

菊池寛	1月21日	朗読「平野二郎国臣」	朝7..00
川路柳虹	1月22日	愛国詩「その朝」	朝7..00
久米正雄	1月24日	前線へ送る夕「前線からのお質ねに答へて」	夜8..00
菊池寛	1月25日	学校新聞「産業戦士諸君へ」	昼2..00
倉島竹二郎	1月26日	「ビルマ戦線の思ひ出」	昼1..00
河井醉茗	2月2日	愛国詩「樺」	朝7..00
大江賢次	2月2日	「ジャワみやげ」	昼1..00
石森延男	2月3日	三年生の時間朗読と音楽「海」	朝11..00
上田広	2月6日	「東海の真珠」	朝7..00
川田順	2月11日	「護国の神域に詠無」	朝9..00
城左門	2月12日	愛国詩「旗日」	朝7..00
海野十三	2月14日	産業戦士慰安の夕「感謝の言葉」	夜8..00
井伏鱒二	2月15日	「部分品」	昼2..30
上田広	2月17日	物語「兵魚」	夜8..00
和田伝	2月19日	物語「平野春近く」	夜9..00
大木惇夫	2月20日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝7..00
川田順	2月22日	「近世愛国歌講話」	朝6..30
古谷綱武	2月23日	朗読「落葉集」	昼1..00
佐佐木信綱	3月1日	朗誦「蘭の花」	朝7..00
井上康文	3月1日	「必死に部署を護る」	昼2..30
里村欣三	3月5日	「*城炭坑を訪ねて」	昼1..00
高村光太郎	3月9日	愛国詩「殲滅せんのみ」	朝7..00
美川きよ	3月9日	戦時家庭「最近のジャワ」	朝9..00
大江賢次	3月9日	朗読「働くジャワの婦人」	昼1..00
井上康文	3月9日	詩の朗読「撃ちてしやまむ」	夜8..00
吉川英治	3月9日	物語「宮本武蔵」	夜8..00
棟田博	3月10日	「中隊長の手紙」	昼0..30
佐藤春夫	3月11日	愛国詩「撃ちてしやまむ」	朝7..00

室生犀星	3月12日	朗読「芭蕉集記」	昼1..00
大木惇夫	3月21日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝7..00
古谷綱武	3月25日	朗読「少女のために」	昼1..00
丹羽文雄	3月27日	朗読「増産必勝の魂―川南造船所を訪ねて」	昼1..00
榊山潤	3月27日	朗読「増産必勝の魂―長岡市00製作所…」	昼1..00
北原白秋	3月27日	朗読「季節の窓」	夜9..00
高村光太郎	3月29日	詩と音楽「最低にして最高の道」	昼0..30
草野心平	3月30日	愛国詩「道都三周年を記念す」	朝7..00
安西冬衛	3月30日	愛国詩「決然たる朝」	朝7..00
佐藤春夫	4月1日	愛国詩「撃てし止まむ」	朝6..30
尾崎喜八	4月6日	愛国詩「造船日本」	朝6..30
大江賢次	4月6日	朗読「南十字星」	夜8..00
火野葦平	4月8日	朗読「兵隊の言葉」	昼1..00
大木惇夫	4月10日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝6..30
吉川英治	4月11日	朗読「南方紀行」	朝9..00
吉川英治	4月19日	物語「林崎甚助」	夜8..00
吉川英治	4月21日	「多感な少年と時代の保護」	朝6..30
水木洋子	4月22日	「ビルマに戦ふ兵隊さん」	朝9..00
榊山潤	4月26日	物語「援け合ふ人々」	夜9..00
吉川英治	5月4日	物語「柳生石舟斎」	夜8..00
加藤武雄	5月9日	「土人の偉人―宮尊徳」	朝6..30
木村毅	5月11日	「アギナルド將軍」	朝6..30
室生犀星	5月13日	朗読「若い牛」	昼1..00
湊邦三	5月18日	報道「セルベス陸戦隊の労苦」	夜9..00
高見順	5月19日	「バリ島王族滅亡物語」	昼1..00
寒川光太郎	5月19日	「ラジア王と我が陸戦隊」	夜6..00
徳富蘇峰	5月22日	「山本元帥の戦死をいたみ国民に願ふ」	夜8..00
吉川英治	5月23日	朗読「戦ひである」	昼2..05

木村毅	5月24日	学校新聞	昼2..00
大仏次郎	5月24日	朗読「山本元帥の武運に寄す」	夜9..00
山岡荘八	5月25日	産業戦士の皆さんへ「神兵に続け」	昼0..00
高村光太郎	5月25日	愛国詩「提督戦死」	夜8..00
逗子八郎	5月26日	前線の歌銃後の歌	昼1..00
西条八十	5月26日	愛国詩「億山本元帥」	夜8..00
土井晩翠	5月26日	愛国詩「ああ億山本元帥」	夜6..00
北林透馬	5月29日	「私のあつたビルマ人」	昼1..00
火野葦平	5月31日	朗読「陸軍落下傘部隊」	昼1..00
浜本浩	6月1日	朗読「病院船の提督」	昼1..00
高村光太郎	6月1日	愛国詩「提督戦死」	夜8..00
岩倉政治	6月2日	「満洲開拓地を訪ねて」	昼1..00
大木惇夫	6月2日	愛国詩「生ける元帥」	夜8..00
高村光太郎	6月3日	愛国詩「五月二九日のこと」	夜7..30
佐藤春夫	6月3日	「霊かけりけむ」	昼0..30
吉川英治	6月5日	報道「山本元帥の葬儀に参列して」	夜8..00
久米正雄	6月6日	大東亜に呼ぶ「南の空北の島」	夜7..20
吉植庄亮	6月7日	朗読「亀田の九蔵」	夜9..00
山本和夫	6月9日	愛国詩「科学は挺身する」	朝6..30
木村毅	6月10日	学校新聞	昼2..00
高見順	6月15日	「ビルマの少年」	夜6..00
大木惇夫	6月16日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝6..30
窪川稲子	6月16日	スマトラで聞いた話、見た話	昼1..00
堤千代	6月18日	物語「あやめの宿」	夜8..00
森鷗外	6月20日	朗読「ぢいさんばあさん」	夜9..00
大木惇夫	6月21日	愛国詩「産業戦士に捧ぐるの唄」	朝6..30
村野四郎	6月22日	愛国詩「海の声」	朝6..30
野口米次郎	6月23日	愛国詩「蟬丸」	朝6..30

鶴田知也	6月23日	朗読と録音「田植の村」	夜9:00
森田たま	6月24日	「マカツサルの印象」	朝9:00
海野十三	6月29日	小国民シンブン「潜水飛行艇 飛魚号」	夜6:00
野口米次郎	7月4日	大東亜に叫ぶ「起ち上る印度」	夜7:20
木村毅	7月5日	学校新聞	昼2:00
大木惇夫	7月6日	愛国詩「日出づる国の大君」	朝6:30
湊邦三	7月6日	高学年大東亜地理「セレベスの話」	昼2:00
林芙美子	7月8日	物語「南方キラキラ集」	夜8:00
尾崎喜八	7月11日	愛国詩「此の糧」	朝6:30
間宮茂輔	7月15日	物語「大漁旗南海にひるがへる」	夜8:00
大江賢次	7月16日	物語「気魄」	夜8:30
尾崎喜八	7月18日	愛国詩「海にて」	朝6:30
高見順	7月18日	「宮古海員養成所」	夜9:00
井上康文	7月21日	愛国詩「田植」	朝6:30
山本和夫	7月26日	「海に生きる人たち」	夜9:00
山岡荘八	7月30日	物語「無敵潜水艦」	夜9:00
荻原井泉水	8月7日	「物として足らずといふことなし」	朝6:30
里見 淳	8月10日	物語「或る母と子」	夜8:00
木村毅	8月17日	物語「南洲の高風」	夜6:30
岩佐東一郎	8月18日	愛国詩「敵機撃墜」	朝6:30
岡不可止	8月21日	朗読「涙袖帖」	朝9:00
大江賢次	8月21日	物語「潮岬」	朝9:00
尾崎喜八	8月28日	愛国詩「勤勞奉仕にて」	夜9:00
高村光太郎	8月28日	朗読「子供の国」	朝6:30
逗子八郎	8月29日	和歌朗読「すめろぎの」	昼1:00
大木惇夫	9月1日	愛国詩「産業戦士に捧ぐるの頌」	夜6:00
上田広	9月1日	物語「密林」	朝6:00
火野葦平	9月2日	劇「真珠艦隊」	夜8:00
			夜6:00

安西冬衛	9月4日	愛国詩「村の初秋」	朝6..30
森鷗外	9月8日	朗読「安井夫人」	昼1..00
下村湖人	9月11日	死ぬ覚悟と生きる覚悟	朝6..30
国木田独歩	9月11日	朗読「武蔵野」	朝6..30
村野四郎	9月12日	愛国詩「方眼紙の海」	朝6..30
近藤東	9月12日	愛国詩「火の花」	朝6..30
笹本寅	9月15日	朗読 空の武士道「或る提督の談話」	昼1..00
鶴田知也	9月18日	ある海軍航空基地	夜9..00
北村秀雄	9月19日	愛国詩「土浦の宿」	夜9..00
西条八十	9月20日	愛国詩「学徒航空隊に寄す」	朝6..30
寒川光太郎	9月20日	「故郷の空に翼ふ」少年飛行兵強度訪問飛行	夜9..00
浜本浩	9月21日	朗読「荒鷲の母を訪ねて」	昼1..00
吉川英治	9月21日	物語「宮本武蔵」	夜7..30
北村秀雄	9月21日	愛国詩「土浦の宿」	朝6..30
海野十三	9月28日	潜水飛行艇、飛魚号	夜6..00
堤千代	9月28日	物語「これも忘れじ」	夜9..00
和田伝	9月29日	朗読「勤労の象徴」	朝6..30
村野四郎	9月30日	愛国詩「方眼紙の海」	朝6..30
井上康文	10月5日	愛国詩「朝」	朝6..30
逗子八郎	10月5日	詩歌に現はれた援護精神	朝9..00
木村毅	10月5日	学校新聞	昼2..00
水木京太	10月6日	物語「戦友」	夜8..00
井上康文	10月9日	愛国詩「比島独立の前夜」	朝6..30
吉川英治	10月11日	物語「宮本武蔵」	夜8..00
木村毅	10月11日	フリリピン独立秘話	夜9..00
村野四郎	10月14日	愛国詩「海の声」	朝6..30
佐佐木信綱	10月14日	朗読「護国の忠義の招魂式の日」	昼1..00
土岐善麿	10月15日	朗詠「靖国神社参拝二首」	朝6..30

尾崎士郎	10月15日	招魂の御祭を拝して	夜8..00
高村光太郎	10月15日	愛国詩「フイリピン共和国独立」	夜8..00
浅野晃	10月16日	英霊に額づく	朝6..30
富安風生	10月16日	朗読「英霊に謝するの道」	夜7..30
高田保	10月16日	ますらをの道	夜8..00
尾崎喜八	10月19日	朗読と管弦楽「靖国の歌」	夜9..00
佐藤一英	10月21日	「ははをおもふ」	朝6..30
寺崎浩	10月23日	物語「母と子と」	夜9..00
尾崎喜八	10月25日	愛国詩「勤勞奉仕にて」	朝6..30
四賀光子	10月26日	朗読「子を思ふ母の和歌」	昼1..00
野口米次郎	10月27日	国土の護り	朝6..30
高村光太郎	10月28日	愛国詩「戦ひに徹す」	夜8..00
高村光太郎	11月4日	愛国詩「戦ひに徹す」	夜6..30
吉川英治	11月6日	物語「宮本武蔵」	夜7..00
尾崎士郎	11月7日	愛国詩「東洋の菊栄える日に」	夜6..30
百田宗治	11月11日	愛国詩「わが子に」	夜6..30
火野葦平	11月11日	朗読「父母の言葉」	昼1..00
和田伝	11月16日	物語「客土」	夜8..00
佐佐木信綱	11月17日	朗読「父の書斎」	昼1..00
山中峯太郎	11月17日	お話「戦友のみなさんへ」	夜6..00
吉川英治	11月19日	物語「宮本武蔵」	夜8..00
西条八十	11月20日	愛国詩「学徒航空隊に寄す」	夜6..30
佐佐木信綱	12月1日	朗読「学徒諸子の出陣を送る」	夜6..30
尾崎喜八	12月4日	愛国詩「船員の労苦に酬いん」	夜6..30
壺井栄	12月7日	女ばかりの航空機工場	昼1..00
相馬御風	12月7日	愛国詩「三度十二月八日を迎へんとす」	夜6..30
北原白秋	12月11日	朗誦「国民決死の秋」	朝7..00
住井すえ	12月11日	朗読「大地の冬衣」	夜8..00

氏名	日付	内容	時刻
西条八十	12月20日	詩朗読「大航空の歌」	昼 1 .. 00
佐佐木信綱	12月23日	皇太子殿下ご誕生ことほぎ奉りて「ひむがしの」	夜 6 .. 30
吉川英治	12月20日	物語「宮本武蔵」	夜 7 .. 40
海野十三	12月24日	潜水飛行艇、飛魚号	夜 6 .. 00
丸山義二	12月24日	物語「鉄をそろへて」	夜 6 .. 30
土屋文明	12月26日	勤労を讃ふ	朝 5 .. 40
百田宗治	12月28日	愛国詩「朝の校庭」	夜 6 .. 30
昭和19年			
吉田絃二郎	1月2日	物語「初日のやうに」	夜 6 .. 00
木村毅	1月4日	お話「新しい日本、新しい大東亜」	夜 6 .. 00
船橋聖一	1月23日	物語「みたみわれら」	夜 6 .. 30
川上三太郎	1月26日	療養所「川柳の味ひ方」	昼 1 .. 30
大江賢次	2月1日	ジャワを征く旗	夜 6 .. 00
土師清二	2月2日	史上の母はかく戦つた	昼 1 .. 00
川路柳虹	2月2日	愛国詩自作朗読「石炭増産諸地下の群像」	夜 6 .. 30
吉川英治	2月4日	物語「宮本武蔵」	夜 7 .. 40
鶴田知也	2月8日	物語「採炭夫」	夜 7 .. 40
高見順	2月9日	朗読「紀元節の思ひ出」	夜 7 .. 40
土岐善麿	2月10日	朗詠「二千六百年」	朝 7 .. 20
大木惇夫	2月11日	愛国詩「紀元節頌歌」	夜 6 .. 30
佐佐木信綱	2月14日	朗誦「まつろはぬ敵」	朝 7 .. 20
日比野士朗	2月14日	物語「村田挺身隊長」	夜 7 .. 40
笹沢美明	2月15日	愛国詩「梅の花に立つ」	朝 7 .. 20
住井すえ子	2月19日	物語「ゆたかなる里」	夜 6 .. 30
豊田正子	2月21日	挺身隊日記「郵便局の窓口にて」	昼 1 .. 00
山本周五郎	2月22日	朗読「横 *」	昼 1 .. 00
大江賢次	2月22日	物語「松風」	夜 7 .. 40

森鷗外	2月23日	明治名作選「ぢいさんばあさん」	昼1..00
富安風生	2月23日	療養所「俳句の味ひ方作り方」	昼1..30
長田恒雄	2月24日	愛国詩「*」	夜6..30
里村欣三	2月25日	物語「杉山軍医中尉」	夜7..40
伊藤永之介	2月26日	物語「甚吉落し」	夜8..00
海野十三	2月29日	成層圏戦隊	夜6..00
尾崎士郎	2月29日	物語「金の兎」	夜7..40
川路柳虹	3月1日	愛国詩「万洲国建国十二周年を迎へて」	夜6..30
石川達三	3月3日	銃後は登山者の心で	朝7..20
吉植庄亮	3月4日	農民の敢闘精神を讃ふ	朝7..20
武者小路実篤	3月4日	朗読「二宮尊徳」	夜7..40
丹羽文雄	3月6日	女子挺身隊激励会「日本女性の進む道」	昼0..20
尾崎喜八	3月10日	愛国詩自作朗読「断然奮起の時・外」	夜6..30
鷺尾雨工	3月10日	物語「大国難克つ」	夜7..40
寒川光太郎	3月14日	朗読「戦ふ輸送船」	夜6..30
長谷川如是閑	3月19日	春風を以つて人に接し秋霜を以つて自ら願しむ	朝7..20
間宮茂輔	3月19日	朗読「わだつみの声」	夜6..00
窪田空穂	3月20日	療養所「短歌の味ひ方作り方」	昼1..30
岩倉政治	3月22日	朗読「母の献金」	昼0..20
船橋聖一	3月27日	物語「鎮西の御盾」	夜7..20
今日出海	3月27日	朗読「四都物語・マニラの巻」	昼1..00
里村欣三	3月30日	物語「北洋の荒鷲」	夜6..00